

未来に向けて

～日本興亜保険グループの新しい取り組み

私たちは現在、地球環境問題や少子化問題など、持続可能な社会を実現するために人類が克服しなければならないいくつかの大きな課題に直面しています。その課題を解決するため、日本興亜保険グループは本業の枠にこだわることなく、新しい社会づくりに貢献できることはないかを考え、安全・安心な子育ての支援や次世代を担う子どもたちへの地球環境をはじめとしたサステナビリティ教育に取り組むこととしました。

こうした取り組みは必ずしも保険会社にとって身近なテーマとは言えないかもしれません。しかし、国内における少子化や待機児童の問題は、社会にとって重要な課題であり、安心して子どもを育てられる社会環境、あるいは母親

が子どもを安心して預けられることによる女性が働きやすい環境を望む声は、切実なものとなっています。また環境問題などの社会的課題を解決し、持続可能な社会を実現するためには世代をまたいだ長期的な取り組みが必要であり、次世代を担う子どもたちへの教育の必要性が叫ばれています。日本興亜保険グループは「安全・安心」をお届けするプロフェッショナルとして、また持続可能な社会の実現・発展への貢献を目指す企業市民として、これらの課題に向き合っていくことにしています。そして保険会社としての事業ノウハウや経営基盤を活用して自ら汗をかき、NPO／NGOや自治体等とも協働しながら、その解決策を探る新たなプロジェクトをスタートさせました。

東京都文京区認可保育所

「一般財団法人 日本興亜スマイルキッズ」の設置・運営

少子化問題の解決には、仕事と子育てを両立できる環境の整備が欠かせません。中でも、認可保育所の定員不足による待機児童問題は、喫緊の課題としてクローズアップされています。育児休業を取得した社員が職場復帰にあたり、保育所に入所できないことを理由に退職せざるを得ないケースも見受けられ、社員のキャリア形成の観点からもこの問題は、企業にとって痛手となっています。

文京区との地域再開発事業で1993年に建設した当社江戸川橋ビルの1階に空きスペースが生じたことをきっかけに、同ビルを子ども・子育て支援事業に活用すべく文京区に相談し、自治体のニーズとも合致したことから、2011年6月、認可保育所「日本興亜スマイルキッズ」を開園しました。安全・安心に徹底的にこだわった保育所を運営していきます。



保育所内での
絵本の読み聞かせの様子



保育所で栽培したトマトを
収穫する園児

世界191か国の子どもたちの未来をつなぐコミュニティサイト

「未来クル・MIRACLE—こども未来創造プロジェクト」

持続可能な社会の実現のために、次代を担う子どもたちの教育はとても大切です。2011年より、小中学校で「身近な消費生活と環境」の授業が加わり、小学校高学年では外国語教育がスタートしました。当社ではこうした動きに沿い、主に小学校高学年から中学生を対象としたサステナビリティ教育の場を提供することとしました。それが世界の子どもたちをつなぐ、日英両言語のコミュニティサイト「未来クル・MIRACLE—こども未来創造プロジェクト」です。サイトの運営は、日本の環境情報を世界191か国に発信しているNGOジャパン・フォー・サステナビリティと協働で行っています。



「未来クル・MIRACLE」
サイトのトップ画面

「未来クル・MIRACLE」の特徴

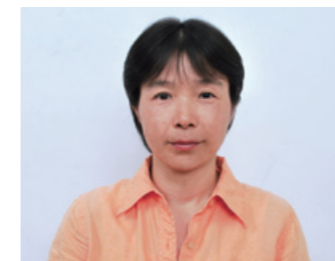
(Webサイトより抜粋)

日ごろの生活ではめったに出会えないような、遠く離れた国や地域に住む同世代の仲間が、どんなふうに住生活し、何を思い、どのような未来を描(えが)いているのか——このサイトでのコミュニケーションを通じて、つながる楽しさを発見してもらえたらと思います。そしてこのサイトでのコミュニケーションがきっかけとなって、各地域・各国そして世界を「本当に幸せな未来」へと動かしていってくれる子どもたちが出てきてくれることを願っています。

このサイトのもう一つの特徴は、日本語と英語の両言語で運営されていることです。皆さんからの日本語の書き込みは英語に、英語での書き込みは日本語に翻訳(ほんやく)されてアップされます。日ごろ英語を使う生活をしていない皆さんにとって、海外の人とコミュニケーションを取るのには勇気がいることかもしれません。でも、言葉のちがいで地球上の大勢の仲間と友だちになる機会を逃(のが)しているとしたら、実にもったいないことです。

ぜひ、このサイトを通じて、世界中の仲間のさまざまな発想を知り、自ら考える力、自分の思いを伝える力を身につけてください。

第二のセヴァン・スズキ育成



NGOジャパン・フォー・サステナビリティ
小島 和子様

このサイトを通じて地球環境をはじめ社会のことを自分たちで考え、お互いに学び合い、人に伝え、行動するきっかけをつかんでほしいと思っています。1992年、リオデジャネイロで開催された「地球サミット」に、子どもの環境団体の代表としてカナダから参加したセヴァン・スズキさん(当時12歳)は、その会議で後に「伝説のスピーチ」と呼ばれる講演を行いました。彼女のスピーチは、満場の拍手喝采を博し、サミットに参加していたメンバーに感動を与え、世界中にも大きな影響があったと言われています。日本興亜損保さんと第二のセヴァン・スズキを探しましょうと、お話ししたのがこのサイトづくりのきっかけです。



日本興亜保険グループ

CSRのあゆみ (社会からの評価・主な受賞含む)

年度	
1990	「地球環境室」を設置
1996	「日本興亜おもいやり倶楽部」を発足
1997	グループ内のリスクコンサルティング会社にてISO14001関連業務を開始
1998	「環境委員会」を発足、「日本興亜の森林」(長野県)を設置、「社会老年学研究所」を設立
1999	グループ内のリスクコンサルティング会社にてISO14001コンサルティング業務開始
2001	日本興亜保険グループが誕生、SRIファンドへの投資を開始
2002	ISO14001認証を取得(本社サイト)、「国連環境計画金融イニシアチブ(UNEP FI)」に署名、環境配慮型火災保険「ビルディング総合保険“e”」を発売
2003	信頼回復費用保険「土壌汚染調査費用担保特約」を発売
2004	環境イノベーションとグリーンビジネスに関する研究会(SPEED研究会)に参画開始
2005	ISO14001全国認証(全国の本部および日本興亜生命、そんぽ24)取得、「おもいやりプログラム(NPO法人の助成活動)」を開始、「Lady,Go!プロジェクト」を開始、仕事と子育ての両立支援策を拡充(育児休業制度の改正・託児費用会社負担金制度の新設・Uターン制度の新設・配偶者同行制度の新設等)
2006	CSRレポートの発行を開始、日本興亜総合研修センターに太陽光発電システムを導入、大学における保険実務講座(寄付講座)を開始
2007	ISO14001事務センター取得により日本興亜保険グループ全拠点で取得、「日本興亜・畑山の森林」(高知県)を設置、品質向上運動を開始、「次世代育成支援対策推進法」子育てサポート推進企業の認定を取得
2008	「カーボンニュートラル計画宣言」を発表、「カーボンオフセット事故対応」を開始、「エコ安全ドライブコンテスト」をスタート、「CO2排出量算定にかかる日本興亜基準」を策定、「エコ・ファーストの約束」を実施、「カーボンオフセット保険商品」を開始、「CO2マイナス20%運動」をスタート、「日本興亜 宮崎・にしめらの森林」を設置、「エコプロダクツ展」に出展を開始、エコラッタ誕生
2009	「チャレンジ・Eco代理店」制度スタート、環境配慮型の日本橋ビル竣工、「Eco-Net約款(自動車保険)」を導入、「エコ安全ドライブインストラクター」制度を創設、「日本興亜・千葉房総の森林」を設置、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みを強化(ノー残業デー・一斉消灯等の四本柱)
2010	NKSJグループが誕生、環境経営学会より感謝状(第1号)を受領、国連グローバル・コンパクトへ署名、「CO2&コスト見える化サービス」を展開、CO2排出量の中長期目標を策定、第14回環境経営度調査(日本経済新聞社)「金融部門第2位(保険業界第1位)」、第9回日本環境経営大賞(環境経営部門)「環境経営パール大賞」を受賞、第14回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞(環境報告書賞部門)「優良賞」を受賞、NKSJホールディングス(株)がSAM社「企業の持続可能性調査」金賞受賞(日本の保険グループで初)、「生物多様性民間参画パートナーシップ」に参加、「TABLE FOR TWOプログラム」に参加

*トピックスの一部については、現在の名称を使用しています。

社会への宣言・イニシアティブへの参画

CSRのさまざまな課題に取り組むため、社会に対する宣言や、国内外のイニシアティブへ自主的に参画しています。

国連環境計画・金融イニシアティブ(UNEP FI)



UNEP FIは、2011年4月現在、世界40か国・194の金融機関から構成される国際的な金融機関のネットワークです。1992年の設立以来、経済的発展と環境保護が両立する持続可能な発展を目指し、金融機関のさまざまな業務やサービスにおいて環境への配慮を進める活動を推進しています。



エコ・ファーストの約束

業界のトップランナー企業の行動をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し、みずからの環境保全に関する取組みを約束する制度で、環境省が2008年4月に創設しました。日本興亜損保は2008年11月に「エコ・ファースト企業」の認定を受けました。また、2011年5月には「節電の約束」も行いました。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)



2000年7月、アナン国連事務総長(当時)の提唱によって発足した国連グローバル・コンパクトは、企業が人権・労働・環境・腐敗防止などの課題に自発的に取り組み、よりよい企業市民へと成長していくことを促す国連と企業のパートナーシップ・イニシアティブです。日本興亜損保は2010年8月に署名しました。

生物多様性民間参画パートナーシップ

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議の開催を契機に、「生物多様性民間参画パートナーシップ行動指針」の趣旨に賛同した事業者、経済団体、NGO、政府などにより設立されました。NKSJホールディングス(株)とグループ会社36社は、設立時から参加しています。

カーボンニュートラル計画宣言

日本興亜損保は、2012年度までにCO2排出量を20%以上削減(2006年度対比)したうえで、削減困難な部分は排出権を購入するなどして、CO2排出ゼロ企業を目指すという「カーボンニュートラル計画宣言」を2008年7月に発表しました。調達した排出権は日本国政府に譲渡することにより、京都議定書における日本の温室効果ガス排出削減目標の達成に貢献します。

過去に発行したCSRレポート



2006年度版 2007年度版 2008年度版 2009年度版 2010年度版



第三者意見書



枝廣 淳子

環境ジャーナリスト、翻訳家
 幸せ経済社会研究所所長
 有限会社イーズ代表
 有限会社チェンジ・エージェンツ会長
 NGOジャパン・フォー・サステナビリティ代表

取り組みの着実な進捗と今後の方向性をわかりやすく、誠実に伝えるレベルの高い報告書です。昨年の第三者意見で指摘した生物多様性、投融資、ステークホルダーとのかかわりなどについてももしっかり取り組んでおり、外部からのフィードバックを元に、自社のCSRマネジメントプロセスを改善・向上していく体制が整っていることが伝わります。

最重要課題の特定をステークホルダーとともにどのように進めたか、特定された最重要課題のそれぞれの項目をどのように計画し、実行し、見直しをして次の目標設定につなげたかというPDCAがわかりやすく示されています。環境マネジメントとその報告のよいお手本になることでしょう。

今年は3月11日に大震災があり、保険会社としては、本業の中核部分である保険金の支払いを迅速に進めることが、被災された方々や日本社会の安全・安心のためにも重要度の高い活動となりました。支払完了率からも、業界平均に比べ迅速な対応だったことがわかります。支払い遅延により行政処分を受けたという過去の負の経験をしっかり仕組みづくりに反映し、他社に先んじる対応体制や企業風土を作ってきたことは素晴らしいことです。

温暖化対策のCO2削減については、人事制度に組み込んでいること、各現場でエコチェッカーが機能できる風土や仕組みをつくっていることなどから、2010年度のCO2排出量は90年度比で40%強の削減とのこと、素晴らしい実績です。また、この経験を活かして社会のCO2削減につなげる「CO2&コスト見える化サービス」の取り組みは、オフィス以外のCO2も対象としていることから大きな成果を期待しています。

データについても社員の細かな職層別の男女の人数を出すなど、現状を誠実に伝え、その現状認識の上で取り組みを進めようとしていることがわかります。昨年は読みやすさについて指摘しましたが、今年度版は情報量と読みやすさのバランスがより良くとれていると思います。

さらなるステップアップのためにいくつかのチャレンジを提示します。さまざまなステークホルダーとの関係性を重視していますが、従業員や取引先などのほか、地域社会、NGO、NPOなどとのダイアログを仕組みとして作り、定着させましょう。また、海外のステークホルダーにも目を向け、取り組みを始めましょう。

自社内の取り組みは足元を固めつつありますので、本業を通じて、社会の環境負荷を下げる活動にさらに注力してください。大きな役割の1つは社会のお金の流れを変えていくことです。環境負荷低減、再生可能エネルギー促進、生物多様性の保全につながるような事業や企業にお金を回していく取り組みを期待します。

さらに3.11が明らかにした日本の社会の課題にも取り組んでください。1つはエネルギー問題です。自社の使っているエネルギーや日本社会のエネルギーをどのように持続可能なものに変えていくのか。その取り組みをぜひ進めてください。また保険業界ならではの貢献として、社会のリスク・リテラシーを高める取り組みにもチャレンジしてください。そもそもリスクとはどのようなものか、どのように考え、どのように対処すればよいのか、あらゆる年代の人々にしっかり伝えていき、考えてもらう場を提供することが役に立つでしょう。

保育所運営や世界の子どもたちを対象としたサステナビリティ教育にも力を入れていくとのこと、次世代につなげていくための活動の展開も含め、最重要課題に対して真のリーダーシップをもって進めていくことに大きな期待を寄せています。



第三者意見を受けて

取締役常務執行役員
 湯目 和史

日本興亜保険グループのCSR活動に対する評価ならびに貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。

当社グループは、2009年度にそれまでの取組みを踏まえ、中期経営ビジョンの筆頭に「社会への貢献」を掲げ、企業理念にある「豊かで健全な社会の発展に貢献」するため、CSR活動を推進しています。3月11日に発生しました東日本大震災は、保険会社の役割そして社会的責任というものを改めて考えさせられ、安全と安心をいち早く確実にお届けする保険事業の遂行こそが社会的責任を全うすることであると再認識いたしました。第三者意見におきまして、東日本大震災への対応について高い評価をいただきましたことを大変嬉しく思っています。

昨年ご指摘を受けました生物多様性、投融資、ステークホルダーとのかかわりなどにつきましても、「しっかり取り組んでいる」という評価をいただき、誠に光栄に思います。また、「情報量の絞り込みも含めた報告書の形式面での検討」という昨年のご示唆を受けて、今回のレポートは網羅性にも一定配慮した上でマテリアリティを重視した構成とし、詳細データなどは「CSRレポート2011 PDF資料編」に移行しました。今回、「情報量と読みやすさのバランスがより良くとれている」と評価をいただきましたが、より多くの方に読んでいただければと思っています。

さらなるステップアップのためのチャレンジとしてご提示いただきました事項につきましては、取り組みの視野を広げ地域や社会の環境負荷低減やエネルギー問題、社会のリスク・リテラシーの向上など、従来の保険事業の枠を超えた社会の安全・安心の提供への取組みといったご示唆をいただいたものと認識しています。従来からの取組みをより定着・強化しつつ、このような視点での取組みにも挑戦してまいりたいと思います。

当社グループは、地域の安全を守り、地域の皆さまに安心をお届けする企業として、CSR活動を本業に組み込むことで、ステークホルダーの皆様とともに「社会への貢献」を果たしてまいれる所存です。

「日本興亜保険グループ CSRレポート2011」プロジェクトメンバー

(50音順)

- | | |
|--------|--------|
| 安達 周介 | 嶋田 行輝 |
| 石川 歩 | 正田 洋 |
| 井実 淳次郎 | 鈴木 貴子 |
| 伊藤 清高 | 鈴木 真恵 |
| 伊東 正仁 | 関根 章 |
| 井本 有香 | 達川 真史 |
| 上尾 明彦 | 富田 亜紀子 |
| 植草 美智代 | 中嶋 貴美 |
| 内山 恵介 | 野上 英樹 |
| 大木 伸正 | 藤沢 美穂 |
| 大澤 薫 | 藤田 卓 |
| 大峰 健太郎 | 松原 厚子 |
| 北島 秀樹 | 米倉 世樹 |
| 北野 泰史 | 和田 修一 |
| 木下 敦裕 | |
| 河野 達朗 | |
| 古賀 謙太郎 | |



お問い合わせ先

日本興亜損害保険株式会社
 経営企画部
 〒100-8965
 東京都千代田区霞が関3-7-3

TEL : 03-3593-5410
 FAX : 03-3593-5383